

3 中学部の実践

3 組

		前期				後期							
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
教科別の指導	音楽	歌、ダンス、楽器演奏、鑑賞 (表現、鑑賞)											
	保健体育	リトミック、サーキット (体づくり運動、陸上運動、球技)				水泳 (水泳運動)		リトミック、サーキット (体づくり運動、陸上運動、球技)					
各教科等を合わせた指導	日常生活の指導	「朝の会・終わりの会」名前呼び、歌、健康観察、一日の振り返り											
		「当番活動」机拭き、掃除、水やり、配布物管理、健康観察											
		「給食」清潔、準備、片付け、食事											
		「身辺自立」物の準備、片付け、排泄、衣服の着脱											
	生活単元学習	「3年生をスタートしよう」 自己紹介カード作り、ビンゴゲーム、ダンス 「新入生を迎える会をしよう」 飾り作り、集会練習、楽器作り、ダンス		「3組カラフル大作戦」 混色、折り染め、アイロンがけ、しおり作り、ラッピング、プレゼント		「修学旅行に行こう」 調べ学習、横断幕作り、日程表・しおり作り、新聞作り、身辺自立に関すること		「カラピタ学習」 接客練習、飾り作り、看板作り、招待状作り、ワークショップ、劇練習		「3組パーティーをしよう」 接客練習、飾り作り、招待状作り、ゲーム、ゲーム準備		「かっこいい高校生になろう」 式練習、集会練習、記念品作り、接客練習、買い物練習、飾り作り	
		「3組畑をひらこう」 草抜き、耕耘、買い物学習、制作活動、調理活動											
		学年生単「新入生を迎える会をしよう」				学年生単「修学旅行へ行こう」						学年生単「卒業式にむけて」	
領域別の指導	特別活動	全校（入学式、始業式、離任式、避難訓練、交通安全教室、終業式）				全校（始業式、学校祭、避難訓練、終業式、きょうだい学級）				全校（始業式、卒業式、修了式）			
		学部（校外学習、新入生を迎える会）				学部（修学旅行、校外学習、冬のつどい）				学部（長岡第二中学校との交流、3年生を送る会）			
	自立活動	ランニング、筋力トレーニング、マッチング、文字の分類、数唱、数の抽出、数の概括、組み立て、発声、言葉の理解（健康の保持、環境の把握、身体の動き、コミュニケーション）											
総合的な学習の時間		チーム活動、進路学習											

[illegible]

単元名	生活単元学習「3組カラフル大作戦」	教科・領域の視点 (教科・領域等関連表参照)	国語、社会、数 学、美術、職業・ 家庭、道徳、自 立活動
学部クラス	中学部 3組 (3年)		
＜本単元でつきたい力(単元設定理由)＞			
本学級の生徒は友達と一緒に活動する雰囲気を楽しんだり共有したりすることができる。学級では自分の活動をやりきることや、活動と結果のつながりを見通す力を大切にしている。また、人と関わる際に強い不安を感じる生徒や、指導者を真似た言葉遣いで友達と関わる生徒もいるが、全員が人と関わりたい気持ちを抱いている。本単元では、混色や折り染めをとおして、自分の活動が結果につながるという実感を得ながら、物の変化を捉えたり、結果に期待したりする力を付けたい。また、染め紙による制作では一定時間自分の活動に集中して活動をやりきる力をつけたい。最後に自分で作ったものをお世話になっている人にプレゼントすることで、自分の活動が人との関わりにつながる喜びやコミュニケーション力を育てたいと考えた。			
＜前単元とのつながり＞			
前単元「新入生を迎える会をしよう」では、同じ活動に繰り返し取り組むことで、積極的に自分の活動に向かう姿が見られた。友達と協力して新入生のための飾りを制作することができ、他クラスの先生から褒められ嬉しそうにしている姿があった。繰り返し取り組んだ活動や友達の姿を支えに、一定の時間集中して活動に向かったり、人との関わりを深めたりしていく力を付けたいと考えた。 また、クラスの自立活動で色の弁別課題に取り組む生徒や、休憩時間に塗り絵や描画をしたり色の名前を言ったりと、色に興味関心がある生徒もおり、色を題材とすることとした。			
＜共生社会へのつながり＞			
自分の活動で人が喜んでくれる経験や、適切な関わり方について意識する機会を設定することで、人への関心や関わりを深め、人と共に生活する力につなげたい。また、手指の操作性を高める活動や、活動と結果のわかりやすい活動をとおして、生活の中で支援を受けながらも自分でできることを増やし、「できた」という達成感と共に生徒自身が主体的に生活する姿につなげたい。			
＜単元目標＞			
(1) 色の変化を捉え期待感をもって混色や折り染めに取り組むことができる。(主体的に学習に取り組む態度) (2) 自分の活動がわかり、一定の時間集中して製作活動に取り組むことができる。(知識・技能) (3) 相手を選び、作ったものをプレゼントすることができる。(思考力・判断力・表現力等)			
＜単元目標の評価規準＞			
(1) 色の変化を捉え期待感をもって混色や折り染めに取り組むことができたか。(主体的に学習に取り組む態度) (2) 自分の活動がわかり、一定の時間集中して製作活動に取り組むことができたか。(知識・技能) (3) 相手を選び、作ったものをプレゼントすることができたか。(思考力・判断力・表現力等)			
＜児童生徒の実態と目標＞			
児童生徒名	実態(単元内容と絡めて)	個人の単元目標	手立て
A (3年)	指導者の言葉掛けや評価を受けることで、手元を見て一定時間の活動に取り組むことができる。改まった場での発言は苦手だが、人との関わりを楽しみ、簡単な会話をすることができる。	・手元を見て1～2工程の活動をやりきる。 ・相手の目を見て、一言添え、プレゼントを渡すことができる。	・活動を促す言葉掛けと一人でできた活動の評価をする。 ・相手への伝え方を提案しながら、本人の発言を待つ。
B (3年)	活動が早く大雑把になることが多いが、言葉掛けによってゆっくりと丁寧に取り組むことができる。自分の発音	・手元を見て1～2工程の活動をやりきる。 ・相手の目を見て、両手	・活動を促す言葉掛けと一人でできた活動の評価をする。 ・相手に伝える言葉を短いつ

	できる言葉や身振り、表情で、思いを伝えようとすることができる。	でプレゼントを渡すことができる。	レーズで提案しながら、指導者が手本を見せる。
C (3年)	見通しのもてる活動には集中して取り組むことができる。挨拶で目線が逸れたり、改まった雰囲気での会話で言葉に詰まったりすることがあるが、人との関わりには積極的である。	・製作の手順がわかり、活動をやりきる。 ・相手の目を見て、適切な言葉遣いでプレゼントができる。	・簡単な言葉で手本を提示し、適宜アドバイスをを行う。 ・初めにモデルを示し、適切な態度や言葉遣いのポイントを押さえる。
D (3年)	初めての活動に強い不安を感じる。活動の方法が明確にわかると自分で最後まで取り組むことができる。人とのやりとりに不安感があるが、友達の様子をよく見て見通しをもつ姿がある。	・製作の手順がわかり、活動をやりきる。 ・指導者と一緒に、一言添えてプレゼントを渡すことができる。	・活動の前に指導者が実際にやって見せ、手順を示す。 ・プレゼントをいつ誰に渡すのか写真で提示し、渡す際には指導者が一緒に「どうぞ」と言葉掛けをする。
E (3年)	初めての活動は苦手だが、「できる」と感じられた活動には自信をもって取り組むことができる。改まった雰囲気での発表や会話には緊張するが、友達の様子を見て頑張ることができる。	・製作の手順がわかり、活動をやりきる。 ・相手の目を見て、一言添え、プレゼントを渡すことができる。	・活動の初めに指導者が一緒に取り組み手順を確認する。 ・相手への伝え方を提案しながら、本人の発言を待つ。

単元計画表

次 (時間)	学習活動	評価規準
1次 (12時間)	・混色実験をしよう ・3組花の木を完成させよう(和紙とコーヒーフィルターの折り染め)	・色と絵の具や色水同士が混ざる様子を注目し、変化を捉えることができたか。 ・紙を小さく折って色水に浸し、広げた和紙を所定の位置に吊すことができたか。
2次 (10時間)	・染め紙しおり作り ・染め紙うちわ作り	・活動の手順がわかり、取り組むことができたか。 ・ハサミやのりを適切に扱い、製作ができたか。 ・一定の時間、自分の活動に向かうことができたか。
3次 (4時間)	・お世話になった人にプレゼントしよう	・写真からプレゼントしたい相手を選べたか。 ・丁寧な字で相手の名前を書いたり、ラッピングしたりできたか。 ・適切な挨拶や言葉遣いで渡すことができたか。

<この単元で身についた力>	<次の単元に生かせる力>
・色の変化や染めの結果を見て捉えることができた。 ・繰り返しの活動の中で、一定時間静かに取り組んだり、取り組み方を自ら工夫したりすることができた。 ・自分なりに他者を意識した態度や言葉遣いで人と関わったり、相手の反応を受け止めたりすることができた。	・活動の結果を見通す力 ・一定の時間、自分の活動に集中して取り組む力。 ・適切な態度や言葉遣いで、他者と関わろうとする力。

「喜びをともにする授業」～多様性は可能性～



児童生徒の変容エピソード

	写真	児童生徒の様子
一次		和紙を三角形に折り、絵の具を浸けて洗濯ばさみに挟んで干す活動に取り組みました。三色の絵の具に様々な角度で和紙をつけて、「じわ」と染まる様子を観察したり、折り方で変わる色の広がり「いい感じ」と満足げに和紙を広げたりして沢山の作品を作りました。
二次	 	染めた和紙を使って作品づくりに取り組みました。うちわ作りでは、お家の人にプレゼントすることを目標にハサミで細く切って、のりで沢山の和紙を貼り付けました。出来映えに大満足で、友達と自分の作品を見せ合って記念撮影をしました。 うちわの次に、しおりを作りました。お世話になった先生を写真の中から選んで、メッセージカードに名前を書いてプレゼントします。前回のうちわよりも小さい台紙で細かな活動でしたが、はさみとのりを用いて「～先生に渡す」と諦めずに最後まで集中して取り組みました。
三次		事前にクラスで確認した様に「失礼します」と教室に入り、お世話になった先生を呼んで心を込めてしおりをプレゼントしました。「ありがとう」と言ってもらってとても嬉しそうでした。

<単元全体をとおして>

「プレゼントをするからがんばろう」と目的意識をもち、できる限り自分の力で活動をやりきり、「ありがとう」という言葉を嬉しそうに受け止める姿が印象的でした。自分の力を発揮することで、身の周りの人の「ありがとう」につながる事がとても嬉しく、もっと色々な人のためになりたいという気持ちが伝わってきました。9月の修学旅行では学習の舞台が地域に広がり、11月の学校祭では地域の方々と関わり合いながら一緒に活動することを目標に取り組みます。